

## テッポウユリ新品種 ‘エンゼルホルン’ の育成

西 真司・仮屋崎義友・野添博昭<sup>1)</sup>

(鹿児島県農業試験場<sup>1)</sup> 鹿児島県農業試験場徳之島支場)

Masashi NISHI, Yoshitomo KARIYAZAKI and Hiroaki NOZOE :  
Breeding of The New Easter lily cultivar 'ENZERUHORUN'

近年、需要の多様化に伴い様々な品目で多くの品種が栽培流通しているにもかかわらず、テッポウユリに関しては、流通品種がきわめて少ない。そのため新たな需要の喚起および用途の拡大のために、新規性のある切り花用品種の育成が必要であった。そこで1988年から花が上向きに咲くテッポウユリの切り花用品種の育成を行った。1996年より2年間3場所において系統適応性検定試験を実施し、1999年5月の命名登録審査会で‘エンゼルホルン’と命名された。

### 1. 育成経過

子房親は花がやや上向きに咲く‘鹿系379号’と、花粉親は立葉で草姿の優れる‘59-186-1’の交配組み合わせから2,352粒の種子を得て、同年10月にこれらの種子をばら蒔き、2年間球根養成を行った。1990年の促成栽培による個体選抜試験において、開花期が早く立葉で花が上向きに咲く15個体を選抜し、それぞれに系統番号を付与した(63-38-1～63-38-15)。

その後、これら15系統について、りん片繁殖による球根増殖およびそれらの球根養成を行い、1994年の促成栽培による系統選抜試験において、花容 草姿が優れ、花が最も上向きに咲く系統‘63-38-9’を1系統選抜し‘鹿系446号’の鹿系番号を付与した。

その後さらに球根の増殖 養成を図り、1996年に‘南西48号’の南西番号を付与し、同年より2年間3場所において系統適応性検定試験を実施した。1999年に「南西48号」は農水省の命名登録審査会を経て「エンゼルホルン」と命名され、2000年に農林水産省育成農作物新品種「ゆり農林7号」として登録された(第1図)。

### 2. 特性概要

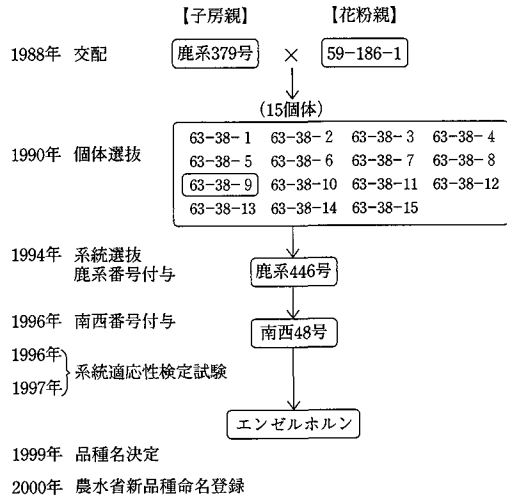
#### (1) 形態的特性

花はやや小型であるが、開花時にやや上向き(水平より約30度上向き)に咲くという従来品種にない特徴を有しており鑑賞性、輸送適性が高い(第1表)。

#### (2) 生態的特性

促成(第1表)、半促成(データ略)、季咲き栽培(データ略)および、露地球根養成栽培のいずれの作型においても、標準品種‘ひのもと’より開花が早く栽培期間は短い。

りん片繁殖率については標準品種に比べ遜色なく、球根生産能力も高い(第2表)。



第1図 エンゼルホルンの育成経過

第1表 促成栽培における開花特性  
(育成地での1996年～'97年の2年平均)

品種名	開花日 (月 日)	花数 (輪)	花径 (cm)	花筒長 (cm)	花向		花被幅		莖長 (cm)
					1番花	2番花	内 (cm)	外 (cm)	
エンゼルホルン	1 9	6 7	11 0	10 9	4	3-4	4 5	4 0	10 3
ひのもと	1 13	6 0	13 0	12 1	5	4-5	4 8	4 0	11 5

注) 供試球サイズ S球 花向:1(直上)~5(水平)の5段階評価

第2表 りん片繁殖率(育成地で1997年に調査)

品種名	1りん片当り 着生子球数 (個)	子球径 (mm)	子球重 (g)	着生子球の球径別割合			
				≤20mm (%)	21-30mm (%)	31-40mm (%)	41mm ≤ (%)
エンゼルホルン	1 4	30 2	13 1	16 7	28 5	38 1	16 7
ひのもと	1 2	32 0	15 1	10 8	32 5	32 4	24 3

注) 供試りん片: S球の中位部